



屋外(内)用 UHFラインブースター (家庭用)

UHF LINE BOOSTER
増幅チャンネル ch.13 ~ 62
UB18L
DC12 ~ 15V方式

F型端子

18dB型

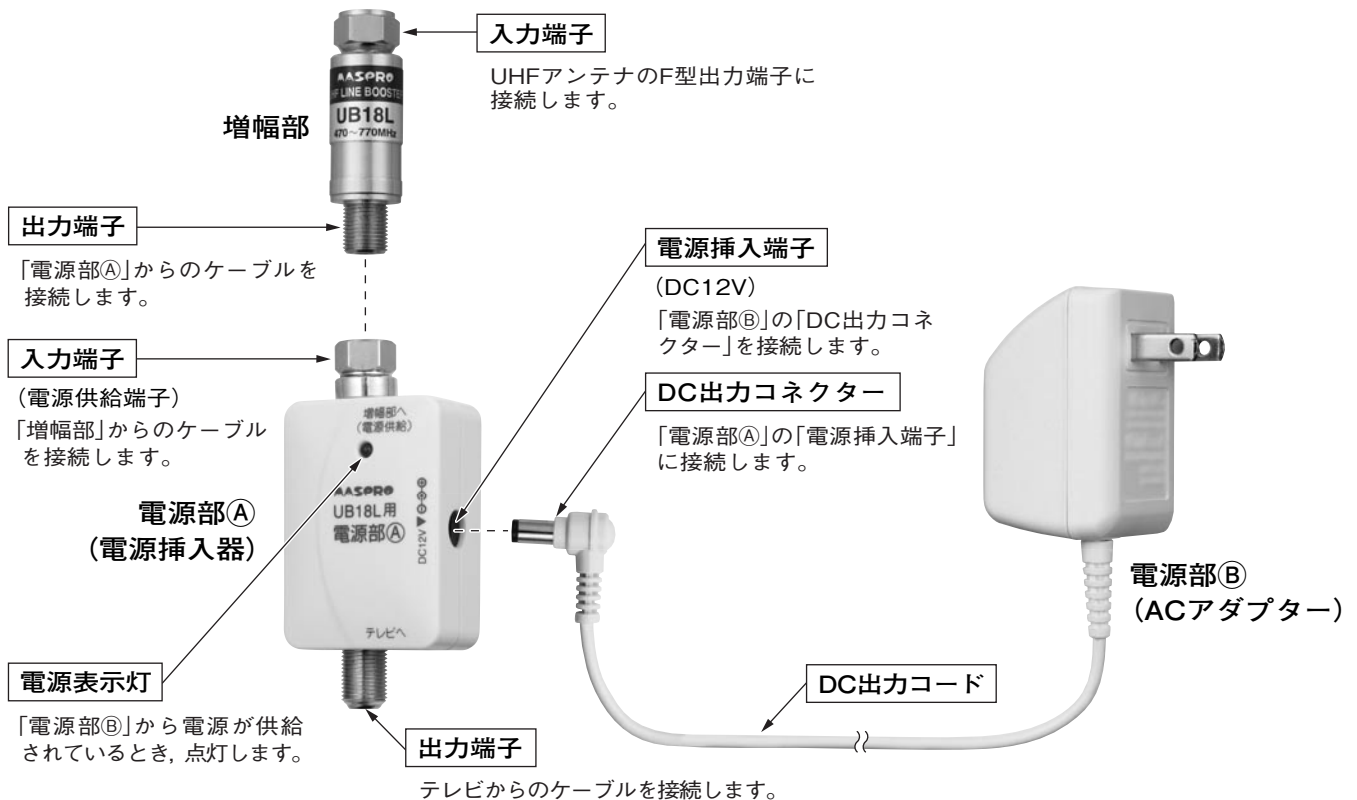
取扱説明書

保証書付



UHFアンテナのF型出力端子に取付けて、テレビ信号の品質の劣化を改善したり、ケーブルの途中に取付けてUHF信号レベルの低下を補ったりするためのUHFブースターです。

MAStEr of PROduction
生産の覇者



ご注意

- 電波が強い地域の場合、本器を使用しても効果が得られないことがあります。
- 受信環境が悪い(ビルなどによる反射波や妨害電波などを受信している)場合、本器を使用しても効果が得られないことがあります。
- 電波が弱く、アンテナとテレビを短いケーブルで接続している状態でも地上デジタル放送の映りが悪いとき、本器を使用しても効果が得られません。
- 本器はBS・CS帯域、VHF帯域を通過しません。
- 電源部A、Bは屋外で使用しないでください。

優れた性能と機能

簡単設置

UHFアンテナのF型出力端子に接続するだけで、簡単に取付けられます。

低雑音

雑音指数(NF)が1dB以下の低雑音ですから、UHFアンテナのF型出力端子に取付けると効果を発揮します。



各種デジタル放送を、より高画質で見えるために、妨害電波の影響を受けにくい、高いシールド性能を備えた機器にマスプロ電工が表示している、信頼のマークです。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」には、製品を安全に正しくご使用いただき、ご使用になる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示がしてあります。その表示と意味は、次のとおりです。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は、注意(警告を含む)が必要な内容があることを示しています。



⊘記号は、禁止の行為を示しています。



●記号は、行為を強制したり指示する内容を示しています。



警告

電源部Ⓐ:電源挿入器
電源部Ⓑ:ACアダプター

●既設のアンテナに増幅部を取付ける場合、アンテナや本器、その他の部品が落下してケガの原因となりますから、アンテナを取外し安全な場所で行なってください。



●電源部Ⓑは、AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



●電源部Ⓑのコードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。また、重いものを載せたり、熱器具に近付けたりしないでください。電源部Ⓑのコードが破損して、火災・感電の原因となります。電源部Ⓑのコードが傷んだ場合(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



●電源部Ⓐ、電源部Ⓑのカバーを取外したり、改造したりしないでください。また、電源部Ⓐや電源部Ⓑの内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、必ず販売店にご依頼ください。



●電源部Ⓐ、電源部Ⓑの内部に、金属類や燃えやすいものなど、異物を入れないでください。火災・感電の原因となります。



●電源部Ⓐ、電源部Ⓑを風呂場・シャワー室などで使用しないでください。火災・感電の原因となります。



●電源部Ⓑは、風通しの悪い場所で使用しないでください。風通しを悪くすると内部に熱がこもり、火災の原因となります。次のような使い方はしないでください。
・押し入れ・本箱・天井裏など風通しの悪い狭いところに押し込む。
・テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いたりする。
・布や布団でおおったり、包んだりする。



●電源部Ⓐ、電源部Ⓑに水をかけたり、濡らしたりしないでください。電源部Ⓐや電源部Ⓑの上に水や薬品の入った容器を置かないでください。水や薬品が中に入った場合、火災・感電の原因となります。ペットなどの動物が、電源部Ⓐ、電源部Ⓑの上に乗らないようにご注意ください。尿や糞が中に入った場合、火災・感電の原因となります。



●雷が鳴出したら、電源部Ⓐ、電源部Ⓑには触れないでください。感電の原因となります。



●電源部Ⓐ、電源部Ⓑおよび増幅部は、必ずセットでご使用ください。他の機器または他メーカーのものと一緒に使用しないでください。火災の原因となります。



●万一、電源部Ⓐ、電源部Ⓑおよび増幅部の内部に、異物や水が入った場合、電源部ⒷをACコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



警告

●万一、電源部Ⓐ、電源部Ⓑおよび増幅部を落としたり、破損したりした場合、電源部ⒷをACコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



●万一、煙が出ている、変な臭いや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源部ⒷをACコンセントから抜き、煙や臭いがなくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。



●濡れた手で、電源部Ⓑを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



●電源部Ⓑは、ACコンセントに根元までしっかりと差し込んでください。すき間があるとゴミがたまり、火災の原因となります。また、電源部Ⓑは定期的にACコンセントから抜いて掃除してください。



注意

●電源部Ⓐ、電源部Ⓑは、湿気やほこりの多い場所、調理台や加湿器の近くなど、油煙や湯気などが当たるような場所で使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。



●電源部Ⓐ、電源部Ⓑは、温室やサンルームなどの、高温で湿度の高い所で使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。



●電源部ⒷをACコンセントから抜くときは、コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず電源部Ⓑを持って抜いてください。



●移動させる場合、必ず電源部ⒷをACコンセントから抜いてください。コードが傷つくと、火災・感電の原因となります。



●お手入れは、安全のため、必ず電源部ⒷをACコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



●長期間、使用しないときは、安全のため、必ず電源部ⒷをACコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



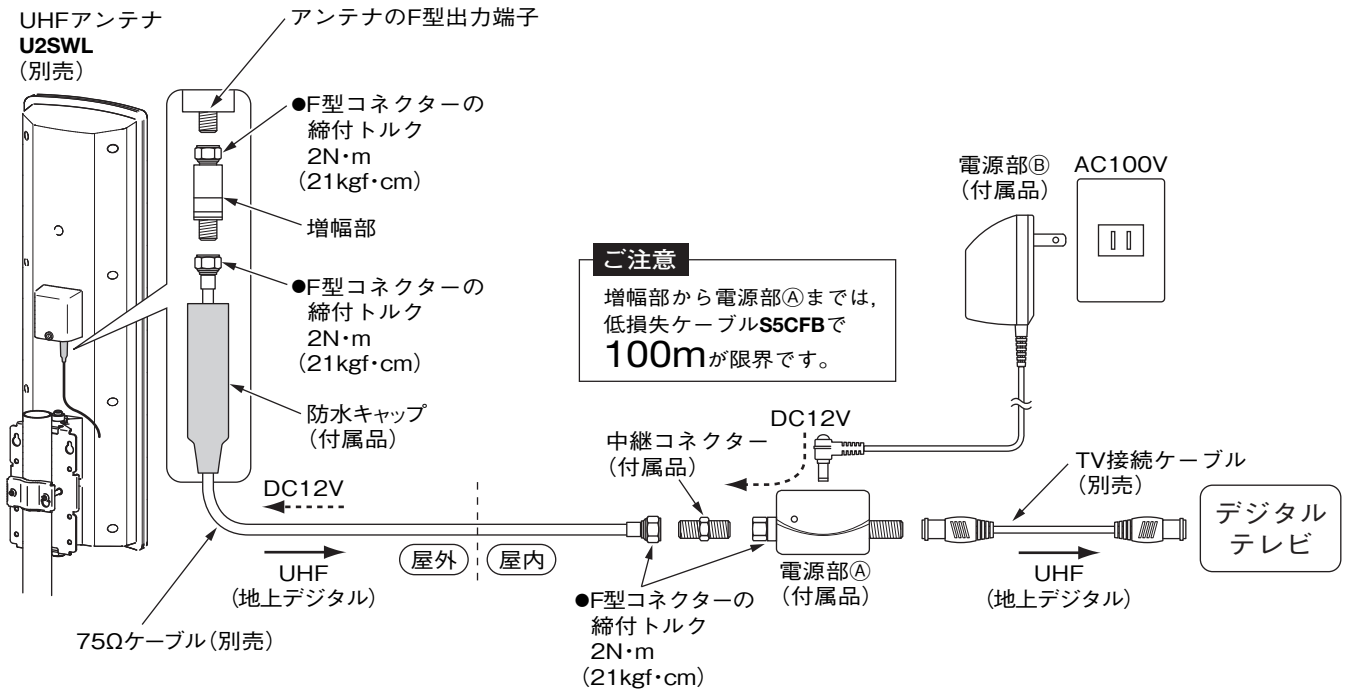
●雷の発生が予想されるときは、前もって、電源部ⒷをACコンセントから抜いてください。落雷によって、火災の原因となることがあります。



使用例

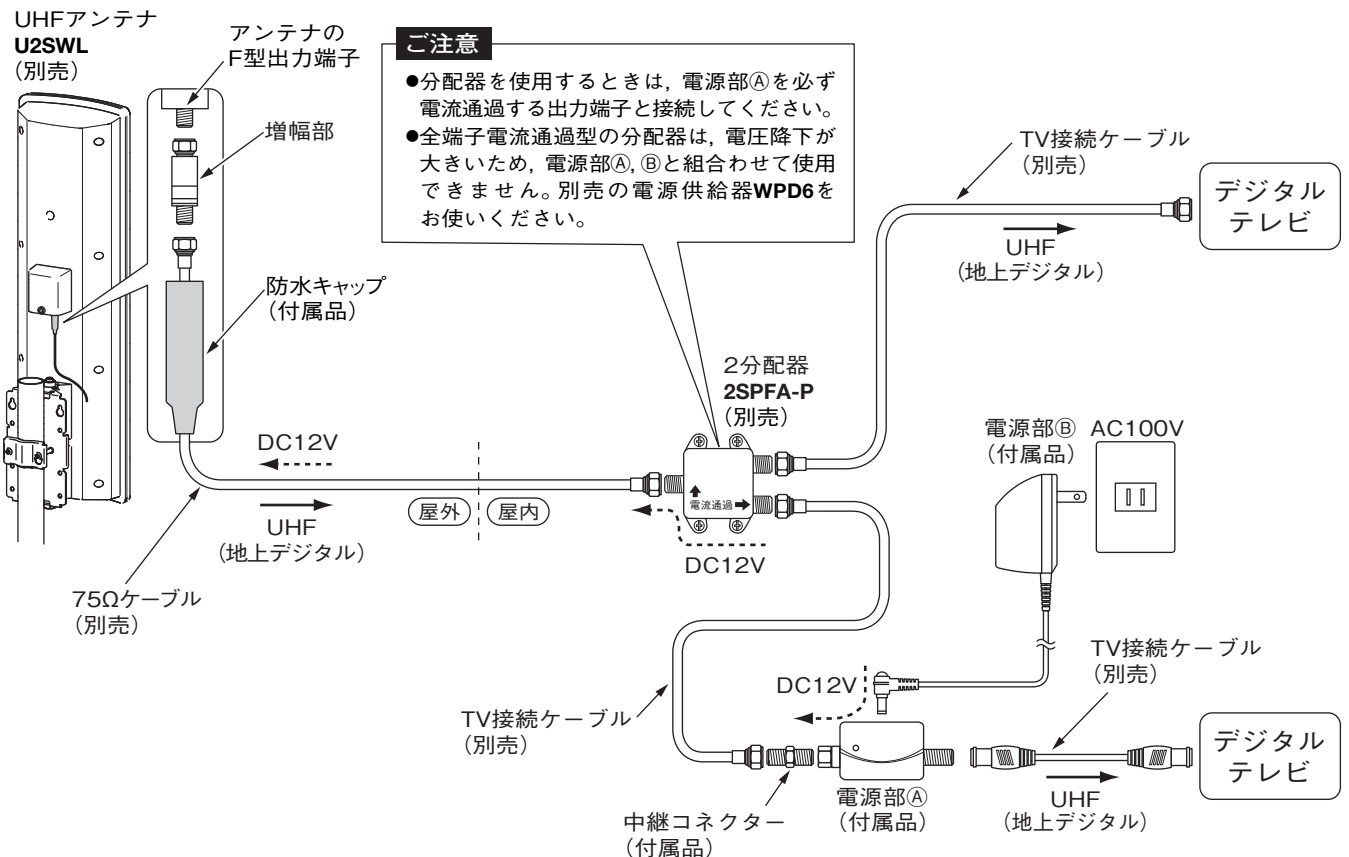
地上デジタル受信例 1

アンテナとテレビを短いケーブルで接続すると地上デジタル放送を見られるが、ケーブルを長くすると映らなくなる場合



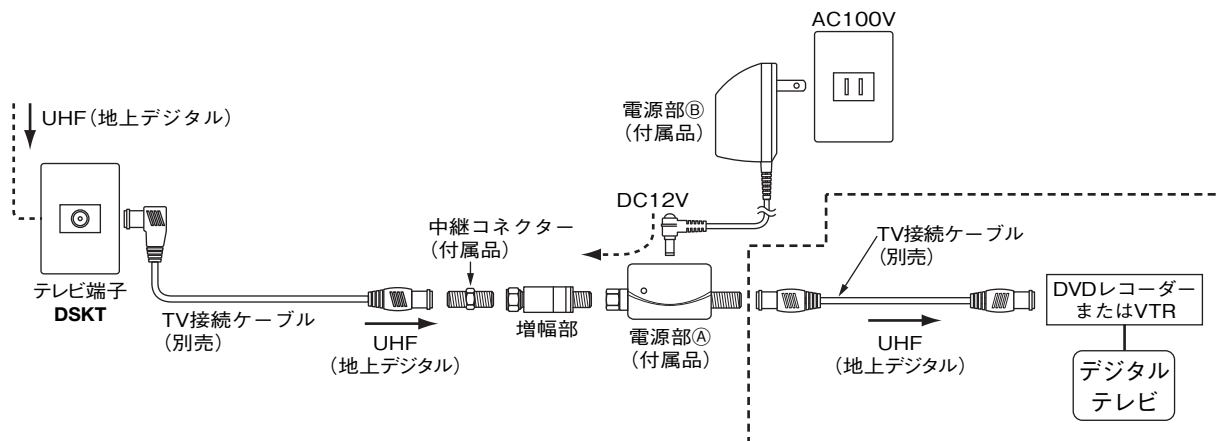
地上デジタル受信例 2

アンテナとテレビを短いケーブルで接続すると地上デジタル放送を見られるが、分配器を使ってテレビの数を増やすと映らなくなる場合



地上デジタル受信例 3

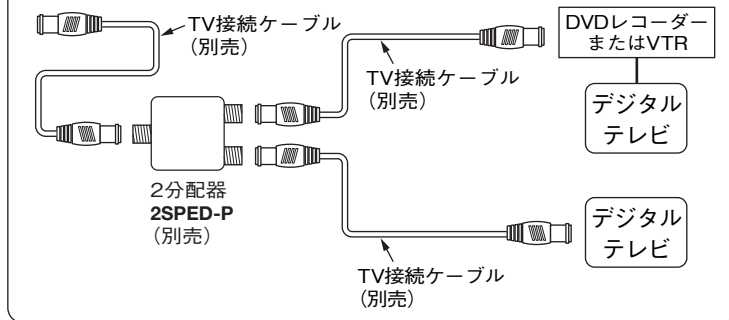
壁面のテレビ端子に直接テレビを接続すると地上デジタル放送を見られるが、テレビ端子とテレビの間にDVDレコーダーや分配器などを使用すると映らなくなる場合



ご注意

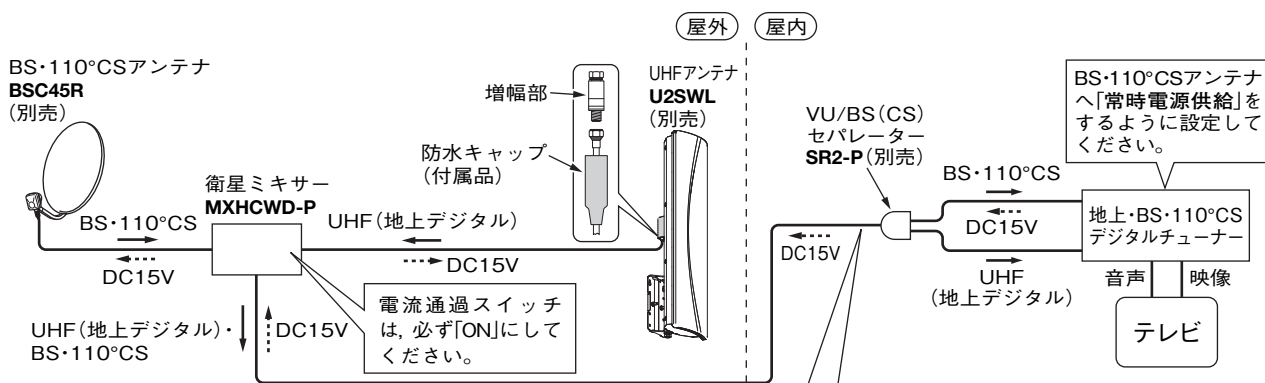
UHFラインプースターを設置しても、デジタル放送受信機に表示される「アンテナレベル」や「受信レベル」の数値は上がりません。(変わらなかったり下がったりすることもあります、本器の不具合ではありません)

分配器を使用する場合



地上デジタル・BS・110°CS受信例

地上デジタル放送とBS・110°CSデジタル放送を衛星ミキサーを使って1本のケーブルで引き込む場合

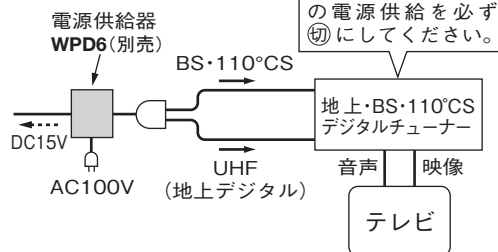


ご注意

- 本器の増幅部は、BS・110°CSの信号を増幅も通過もしません。1本のケーブルで屋内に引き込む場合、別売の衛星ミキサーMXHCWD-Pが必要となります。
- 電源部(A)、(B)は使用しません。(地上・BS・110°CSデジタルチューナーまたは地上・BS・110°CSデジタルテレビのBS・110°CSアンテナへの電源供給機能を使用して電源を供給します)

デジタルチューナーまたはデジタルテレビに常時電源供給機能がないとき

別売の電源供給器WPD6を使用してください。



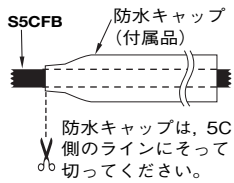
F型コネクターの取付方法

- 接触不良やショートを防ぐため、プラグはていねいに取付けてください。
- F型コネクタ(FP5)は別売です。

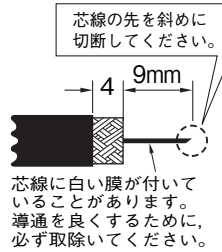
ご注意

既設のアンテナにケーブルが接続されているときは、コネクタの近くでケーブルを切断して付属の防水キャップにケーブルを通してからF型コネクタを取付けてください。

- ①ケーブルを付属の防水キャップに通してください。

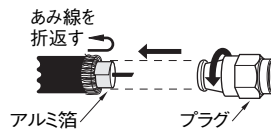


- ②ケーブルの加工 (加工寸法は原寸大です)



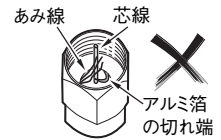
- ③プラグの取付け

1. かしめ用リングにケーブルを通してください。
2. あみ線(銅編組)を折返してください。
3. プラグの内側にアルミ箔が入るように、アルミ箔の巻付けられている方向にプラグを回しながら、ていねいに押し込んでください。



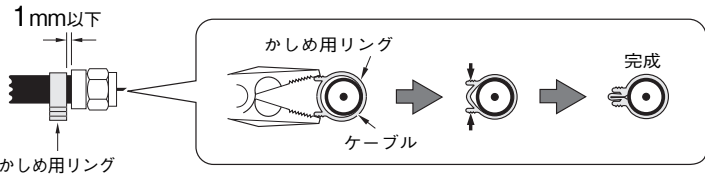
あみ線・アルミ箔のショートに注意

あみ線(銅編組)やアルミ箔の切れ端は、取除いてください。芯線に接するとショート状態になり、テレビを見られなくなります。



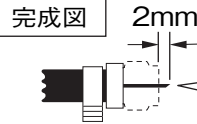
- ④かしめ用リングをペンチで圧着

プラグが抜けないように、プラグの根元でしっかりと圧着してください。



芯線の長さは、必ず2mmにしてください。

芯線が長すぎると、コネクタが破損して機器が故障します。



芯線は、まっすぐにしてください。芯線が曲がっていると、ショートして機器が故障します。

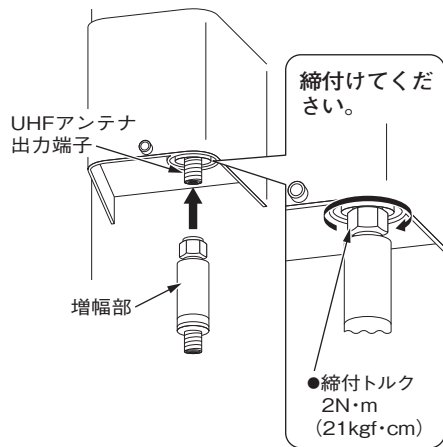


増幅部の取付け (屋外)

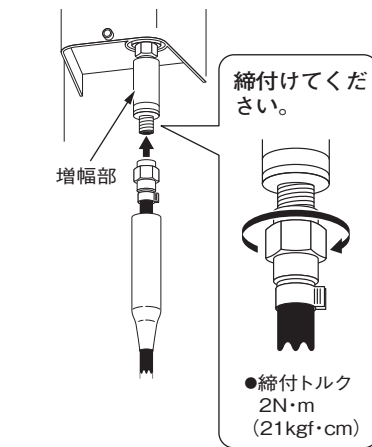
ご注意

付属の防水キャップが取付けられないときは、市販の防水テープを増幅部およびコネクタ全体に巻いてください。
当社推奨品: フィットテープ(住友スリーエム製)

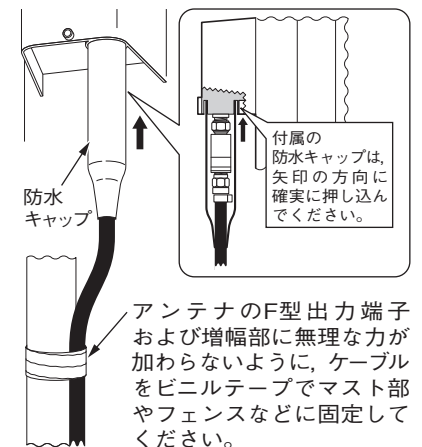
- ①アンテナのF型出力端子へ増幅部を取付けます。



- ②ケーブルを増幅部の出力端子に取付けます。



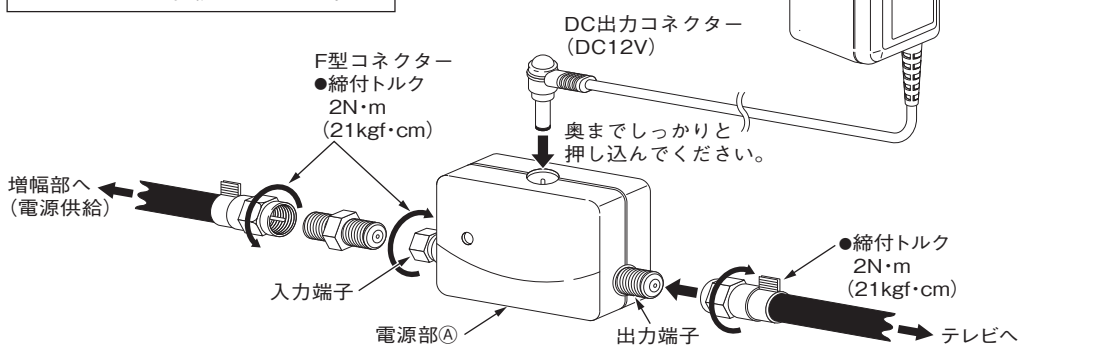
- ③防水キャップを取付けます。



電源部A, Bの接続 (屋内)

ご注意

電源部Bは、配線がすべて終了してからACコンセントに接続してください。



地上デジタル放送が見られないとき

- 増幅部, ケーブルのコネクターの芯線が曲がっていませんか。
- 電源部⑧のDC出力コネクターは, 電源部④の電源挿入端子の奥までしっかりと押し込んでいますか。
- 電源部⑧はACコンセントに差込んでありますか。
- 電源部④の入力端子(増幅部へ), 出力端子(テレビへ)は正しく接続されていますか。
- デジタルチューナーまたはデジタルテレビから電源供給している場合, 「常時電源供給」に設定しましたか。

規格表 Specifications

増幅部

項目 Items	規格
伝送周波数帯域 (受信チャンネル) Frequency Range	470 ~ 770MHz (ch.13 ~ 62)
利得 Gain	16 ~ 20dB
雑音指数 Noise Figure	1dB以下
実用入力レベル Operating Input Level	40 ~ 73dBμV
定格出力レベル Rated Output Level	93dBμV (デジタル 9波)
VSWR Voltage Standing Wave Ratio	3以下
入・出カインピーダンス Input/Output Impedance	75Ω (F型コネクター)
電源 Power Requirements	DC12V 0.03A (付属電源部④, ⑧使用時) DC15V 0.05A (別売の電源供給器WPD6使用時)
使用温度範囲 Temperature Range	⊖20 ~ ⊕40°C
外観寸法 Dimensions	50(H) × 15(φ) mm
質量 (重量) Weight	約30g

AASPRO

電源部④ (電源挿入器)

項目 Items	規格
伝送周波数帯域 Frequency Range	70 ~ 770MHz
挿入損失 Insertion Loss	1dB以下
VSWR Voltage Standing Wave Ratio	1.5以下
電流容量 Power Supplying Capacity	0.04A以下
供給電圧 Supply Voltage	DC12V
使用温度範囲 Temperature Range	0 ~ ⊕40°C
外観寸法 Dimensions	75(H) × 36(W) × 22(D) mm
質量 (重量) Weight	約45g

AASPRO

電源部⑧ (ACアダプター)

項目 Items	規格
1次電圧 Primary Voltage	AC100V 50・60Hz
出力電圧 (電流) Output Voltage / Current	DC12V (0.05A)
使用温度範囲 Temperature Range	0 ~ ⊕40°C
外観寸法 Dimensions	57(H) × 36(W) × 36(D) mm (ACプラグ部含まず コード長 1.8m)
質量 (重量) Weight	約125g

AASPRO

付属品

- 電源部④ (電源挿入器) …… 1個 中継コネクター …… 1個
 (電源部④に付いています)
- 電源部⑧ (ACアダプター) …… 1個 防水キャップ …… 1個

マスプロの規格表に絶対うそはありません。保証します。

MASTER of PRODUCTION
生産の覇者

UHFラインブースター保証書 MODEL UB18L

お客様ご住所	
TEL.	-
★お客様お名前	様
★保証期間 (販売店記入欄)	
お買上げ日	年 月 日から 1年間
★販売店名・住所 (販売店記入欄)	
TEL.	-

無料修理規定

- 取扱説明書などの注意にしたがった正常なご使用状態で、保証期間中に故障した場合、お買上げの販売店に本製品と本書をご持参、ご提示のうえ、修理をご依頼ください。無料修理させていただきます。
- 次のような場合、保証期間中でも有料修理になりますから、ご注意ください。
 - ・本書のご提示がない場合。
 - ・本書に、お客様お名前、お買上げ日、販売店名の記入のない場合、または、販売店の発行した、お買上げ日、販売店名を確認できる証明書(領収書など)のない場合。
 - ・本書の字句を書換えられた場合。
 - ・火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、ガス害、異常電圧などによる故障および損傷。
 - ・ご使用上の誤りによる故障および損傷。
- 本書は日本国内に限り有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

持込修理

本書に明示した期間および条件で、無料修理をお約束します。保証期間経過後の修理については、お買上げの販売店にお問合わせください。修理によって機能が維持できるときは、お客様のご要望により、有料修理いたします。

★印の欄にご記入のない場合、または、販売店の発行した、お買上げ日、販売店名を確認できる証明書(領収書など)のない場合、無効になります。本書は再発行いたしませんから、紛失しないよう大切に保管してください。

＝マスプロ電気株式会社＝

本社 〒470-0194 (本社専用番号) 愛知県日進市浅田町上納80
営業推進部 TEL名古屋 (052) 802-2244



環境負荷物質を抑止

特定有害物質使用規制(RoHS指令)対応

＝マスプロ電気＝

本社 〒470-0194 (本社専用番号) 愛知県日進市浅田町上納80
技術相談

0570-091119

ナビダイヤル。固定電話からは全国一律料金でご利用いただけます

IP・PHS (ナビダイヤルが利用できない) 電話からは 052-805-3366

受付時間 9～12時, 13～17時 (土・日・祝日, 当社休業日を除く)

インターネットホームページ www.maspro.co.jp

技術相談以外は、お近くの支店・営業所にお問合わせください。

営業部 支店・営業所

- 首都圏 (シ) (03) 3499-5632
 西日本 (シ) (082) 230-2359
 鹿児島 (099) 812-1200
 北日本 (シ) (022) 786-5062
- 福岡 (支) (092) 551-1711
 沖縄 (098) 854-2768
 鹿児島 (099) 812-1200
 宮崎 (0985) 25-3877
 熊本 (096) 381-7626
 長崎 (095) 864-6001
 北九州 (093) 941-4026

製品向上のため

- 下関 (083) 255-1130
 広島 (支) (082) 230-2351
 松江 (0852) 21-5341
 岡山 (086) 252-5800
 松山 (089) 973-5656
 高知 (088) 882-0991
 高松 (087) 865-3666
- 大阪 (支) (06) 6635-2222
 姫路 (079) 234-6669
 神戸 (078) 231-6111
 京都 (075) 646-3800
- 東海 (工) (052) 804-6262
 名古屋 (支) (052) 802-2233

- 津 (059) 234-0261
 岐阜 (058) 275-0805
 豊橋 (0532) 33-1500
 静岡 (054) 283-2220
 松本 (0263) 57-4625
 福井 (0776) 23-8153
 金沢 (076) 249-5301
- 関東 (工) (03) 3499-5631
 首都圏電材 (営) (03) 5469-5521
 東京 (支) (03) 3409-5505
 新潟 (025) 287-3155
 横浜 (045) 784-1422
 八王子 (042) 637-1699
 千葉 (043) 232-5335
 さいたま (048) 663-8000

- 前橋 (027) 263-3767
 水戸 (029) 248-3870
 宇都宮 (028) 636-1210
- 仙台 (支) (022) 786-5060
 郡山 (024) 952-0095
 盛岡 (019) 641-1500
 秋田 (018) 862-7523
 青森 (017) 742-4227
 札幌 (011) 782-0711
 釧路 (0154) 23-8466
 旭川 (0166) 25-3111

(営): 営業グループ
 (シ): システム営業グループ
 (工): 工事グループ

MAY, 2011